

古流全ての匠の奥義を継承する一族の俺、

若くして稀代の天才伝承者なのに、

超重量運搬トラックに二度轢き！

体験版

上巻

異世界原始時代に来ちゃったよ！

著者・ろつきゆん



古流全ての匠の奥義を継承する一族の俺は若くして稀代の天才伝承者、なのに超重量運搬トラックに二度引き、異世界原始時代に来ちゃったよ

ろつきゆん

例えばの話でしょう――

例えば、ほんとに例えばだが。

俺が創世記のアダムとした場合。

海と密林と野獣しかない【楽園】で――隣で踊って笑って喋りだした、この【キノコ】はイヴなのだろうか？

それともアダムつまんない、超そちゅん！ で、有名な、天界から脱走したエロで浮気遣伝子マシマシの神様の失敗作リリースなのか？

……どうやら俺はもう、判断する頭までイカレたようだ――

異世界転移したばかりの主人公の苦悩――より抜粋。

序章に満たない叙情……

「なんでやろうな……ほんに、わかりませんがな」

こういう経緯で、

俺がこの場所に座っていたのかは――今は思い出せない。

ただ、あの世に来てしまったのだけは確かだと思う。

だって目の前には、超金つかってそうな、白磁器のような壁と、足元は白の大理石。ギリシャの神殿みたいに、ご立派な柱が、この広い神殿？ の、入り口から、俺ら三人が座る椅子まで等間隔で並んでる。

もつとも俺の椅子は、小学校の体育館。

校長とか生徒会長がえらそーに、立って、くっちゃべる、壇上——その下に収納されてるパ
イプ椅子だ。

そして目の前には王様と女王が座るような、金の縁取り赤の椅子。
つまりこれもご立派な玉座だ。

そこに王様は殺害でもされたのか？ 女神っぽい八翼の翼を広げ、座りにくそうに翼を動
かし、さらに頭部の側面から天空へ向かうような魔界の魔神みたいな角が側頭上部から生えて
いる。

あれでベッドで眠ったら寝返りはどう打つのだろう。

まず旦那ができても見つめ合って、お布団でウッフの性交の後のピロトークは不可能ではな
いだろうか。

さらに翼左右4枚で、計八翼だぞ。

もう寝返りは諦めていいレベルだ。

というかセックスはどうしてるんだろう。

やはり天界の女神だから永遠の処女で、ベッドでガッツンガッツンしたりはしないのかわし
れない。

所詮は性交で繁殖するなどゲスの極みか。

ならば翼は邪魔にならない？

てな訳で、そんな双子みたいなそっくり女神がいて、違いといったら着用してる衣服の色が
違うだけ。

顔おんなじ。

でも、ひとりは、ちょっとロリ顔風味。

あ、髪の色違った。

ま、どうでもいいから描写とか、そんな状況の説明なんていらないよね。

だってこれから俺は、

人生の分岐——じゃなく、あの世での分岐！

が、始まろうとしていたのだから。

序章……

「この漢字難しい。この子なんていうの？」

「さあ、ロク？ 適当でいいんじゃないっすか？ なんか色々あるよ、なにこの子の名前の数……エノクさん？」

二人の少女が草原の上に浮かび、光り輝く少年——つまり俺を囲んで品定めをしている。

少女らは薄らと光り輝き、嫋やかに身を浮かばせている。せっかくケツの下に立派な玉座という椅子があるんだから、座ればいいのと思う。

彼女たちが女神だという事は、俺もなんとなくが気が付いていた。だって、神々しいし。綺麗だし、翼たくさんだし。あ、天使に翼ってないんだよね。

カトリック天使は神は三体しかつくってないし、翼は中世付近？

神殿とか教会の権威をあげるために、天使には鳩の翼！

みたいな宗教絵画がかかれて出来た疑似天使状態が、今の現実世界で信じられてる嘘の描写。

まあ、そんなんでもいいけど。

でも、この女神さんら？

八枚も翼はやしているよ。

もりすぎ？

それともSEEDに目覚めたロボットが、八枚の翼っぽい破壊兵器で、ファンネルになったりして攻撃したりするのかな。20数年たって、意味もない映画化おめでとうございます！

そして俺は魂のまま金髪の女神と、薄紫色の髪の女神を交互に眺めて座り込んでいる。

「アリス、とりあえずこの子は……あ……、うん。なんじゃこりゃ、こっちの世に影響でるほど、真名隠せんの……怖いわ、この子の一族。なんかやばそうだから、全部無視してロンダルキア、ロンダルキア・アイゼンバークでいいっすよ」

そう跳ねた声で言ったのは金髪の豊満な胸の女神。
長い髪を腰まで伸ばし大きな瞳に長い睫毛。

柔らかな柳眉に加えてなだらかな鼻梁、ぷくりとした唇からも解る愛くるしい美人だ。そしてどこことなく会話の中で姉らしさを必死にアピールして胸を反らしている。

——大丈夫、十分でかいよ。

そう声をかけてあげたくもなるが。

これからどんな采配で天国送りか地獄送りが、この二人の胸先三寸できまるのだ。

優しさはね、自分にひどい悲しみがあって、乗り越えてきた証しが優しさなんだよ。

でも俺はまだ、この天界だか、現世とそーるそさい TEA の狭間みたいな空間の神殿にいる。

そんな気がして。

あえて黙秘してた。

「おい、聞こえてるよねロンダルキア？」

——すげえ、死んで迷ってる魂相手に、いきなりあだ名でよんできたよ……しかも勝手に決めた名だよ。

あ、あれか、死んで寺で住職さんに全部一人すると、戒名なる物を現金で買うとか。高ければ、高いほど、かっこいいとか！

でも確か、そうやって金に執着する守銭奴とか、生臭坊さんがお経を適当に唱えると、死体を盗みに来る妖怪がいたなあ。で、坊さんを喰いに来るらしい。

うん、妖怪なんていないから、人食い風習の改変だね。

「おいおい、もしもーし、きいてる？ 君、地上で死んじゃったの。だから魂が分岐点にいるの」

そう言ったのは、少したれ目な柔和な笑顔も素敵なお顔の女神だ。

ツラつとした幼児体型で、紫の長い髪を両脇で結わえ、姉に負けないよう必死に胸を反らす姿は愛らしい。

だから俺もこう応えるしかなかった。

だってこの世界は、たぶんあの世。

天国にはいきなりいけない状態で、ここでエジプトの心臓の天秤にかけて天国えっらいとっこ、いっちょどはおいで〜じよいな、じよいな♪な、天国か！

それとも、『ひゅ〜新しい新入りがやってきたぜ〜ケツ穴の掃除は済んでるんだろくなあ？』と、米国の刑務所か、それとも日本のさいたま県を陣地と領土侵略して、アラー崇拜、してつかどうかはしらんけど、アルカイダやISの自爆テロの連中みたいなのが平然と、【執拗なナンパ。強引なナンパ——つまり集団強姦隠蔽マスゴミありがとうございます】状態の生き地獄が本物地獄へご招待。すぐ暴力に訴える狂怒人街に成り果て、警察ちびってビビって賄賂でももらったの？ 出動ナッシングで動けない。動かない。状況重く見た近所の議員さんが自転車でパトロール——とか、職務でやる事、みんなで真逆じゃねえか！
どうなってんだこの世界！

いつからマルチ・バーストしやがった！

閃K●Uさんもビックリしちゃうだろ！

の本物バージョンの地獄へ行くか！

どっちがいいの？

と聞いてきてるわけだが。

頭おかしいんじゃないか。

普通いかねえだろ地獄！

選択肢にでない例題だよ！

いずれにしろ俺の答えは決まっている。

こいつらは馬鹿だ。

分かり切ってることきいてるんだから。

ちよっと顔立ちの良い、周囲にハニトラしかけて玉座に座ってる米国の性格ブスXX染色体

と同義！

ただの雌だ。

いつか俺が調教して鼻フックつかって、跨って、おもっきり鼻フックか髪の毛ひっぱってぶひゅひゅ言わせてやる。

さて、この嬢ちゃんたちにはわからんだろうから。

おしえてやっかと。

少年の魂は肩を回して指ポキ。

天が地を統べるならば、俺はそれにふさわしい場所からやってきた。

お前らにぴったりな下界からやってきた。

そして俺はあの糞つたれの世界で神をも超えていた。

それが今証明される。

地は天を腐らせる！——それが俺の宿命だ！

それを納得させるには——もうこれしかない！

俺は女に上から見上げられるのは、大っ嫌いだ。

俺が上からみつめて小便かけるのは大好きだが（過去形）

俺はラノベみたいな優純不断が主人公のユニークスキル設定で、常識化してる糞みてえな青臭い世界が大嫌いなんだよつとくらあ！

そして——宴は始まった！

俺は魂のまま立ち上がると、軽快なステップで——マイコーも、エルビンも足元に及ばず真っ青で歯が立たねえ、シャウトとダンスを披露した！

【あいつの名前は押しかけローリー

鹿のキンタマ噛み千切り！

玉を転がし、ベロ乗せた！
微笑んだ！

はい！】

「……」

「……」

女神二人が目をおっぴろげて何事かと硬直する。
が——知った事じゃない！
本気のビートとラップで黒人さえついてこれねエ世界を見せてやる！

【あいつの名前は押しかけローリー

鹿のキンタマ噛み千切り！

玉を転がし、

微笑んだ！

はい！

あいつの名前は押しかけローリー！

血だらけベロに二つの睾丸！

口の中にひっこめて！

飴玉みたいに転がしながら！

俺のっ、隣で、微笑んだ！ はい！】

「……」

「……」

女神が白目で完全硬直……が、知るか！

【あいつの名前は押しかけローリー！

熊のキンタマ神千切り！

玉を啜えて頬肉ひろげ、

リスの真似して微笑んだ！ はい！

あいつの名前は押しかけローリー！

俺の部屋番割り出して、

夜中に戻りゃ、全裸正座でワクテカ待機！

俺の帰りを待ち続け！

帰った俺に口づけかまし、

ひっぱたいたら、

睾丸20！

そのまま一気に吐き出した へい！】

「……」

「……」

テンポ速度ダンスにブースと！

【あいつの名前は押しかけローリー。

俺の名前はロンドンダキア！

押しかけローリー蹴り飛ばし！

血だらけ笑顔が迫りくる！

俺はロンダル！

ヤンデレ殺しの達人で！

そのままローリー、

ごめんな！一言！

奴の首をへし折った！

へい！

俺の名前はロンダルキア！

ヤンデレスレイヤーロンダルキア！

世界の基地害女ぶっ殺し！

天界地獄どっちもかわらん！

叩きのめして追い出した！

へい!!!!!】

俺の軽快なラップミュージック。
アンド、ダンス！

全てが神がかったパーフェクト！

その姿に女神はよいしれ、そして、

『うげええええええええええええええええええええええ！』

話をともに聞いたらしく、ゲロ吐いた。二人で。

「さて、自己紹介も終わったところで……」

「え、あれ、自己紹介だったの!？」

妹女神が驚愕

「うん。でね、俺、死んだ？　もしかして、まずい状況？」

そんな二人の女神を見ながらようやくまともな第一声を放つロンダルキア。
少し停滞してた時間の歪みが進みだす。

「えっと、あ、うん。はい」

妹女神が敬語になった。

「んと、まずい状況はもう終わったってところかな。痛かったでしょ？　昭和のトラック運転手がやってた、人を刎ねた時の常套手段、二度轢き！」

「ちょ、なにそれ!？」

妹さんの言葉にロンダル驚愕！

でもそれに姉が平然と、なんかとんでもない事言ったよね！妹さん！
そう問い返したいロンダルにこんなん慣れてるよ。とばかりに返答。

「あん？　耳詰まってんすか、あんたは。

もっかい言ってあげるから、耳の穴かっぽじってよく聞けよヒョロガリゆとり野郎」

「……」

「……」

「んで、そんなのみたいのが、車のタイヤで下半身もんじゃ上半身だけ、えい●アンのアンド●イドみたいに、ビクビク動いて叫ぶ姿は笑え——おっと、失敬——必死に泣きながら血を吐きながら叫んでるから——半分潰したGのようで——」

そこで、彼はもう深呼吸。

んで——

「いち、に、さん、ハイ！——いいいいいいいやああああめろおおおおおおおおおおおおおおおおおお！　そういうホラーちつくな、怖い話は、やめろおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお！」

「だが、断る」

「!？」

——マジかよお……、この姉女神すげえ。

てか信じらんねえ、あの世まできて、ホラー話。

しかも自分の死んだ時の話を強制的に聞かされてる。

このロリっ子姉女神は。

てか絶対楽しんでるだろ。

とか思ってたら。

続いたよ。

「で、血みどろの半分人間性残ってるよ状態の被害者をみた運転手が、どうするのか！」

「知らん！　やめろ！　もうやめて！　いや、もうほんと、やめてさしあげて、聞きたくない。ちょっとあまりに可哀そうでしょ？　思うでしょ？　だって、目の前の男の子は本気で怖がっているんですよ！」

「ぶつぶ、憐れで無知ね幽霊君。まず、運転手は、携帯電話をもっていない。PHSだの、ポケベルだのも存在しない時代。まあ、ショルダーホンとかあったけど、トラックあんちゃんに会社がそんな高価なもん支給しない。だから、救急車呼ぶには山道の人気ない、車もほとん

どこない、そんな時のためにトンネルの出入口とか山道突き抜けな、山越え国道の途中に緑の電話ボックスがあつてゝ。でも、遠いし、そして、なにより、助けるわけにいかないの！」

「なんで？」

「なんで？　つておもうつしよ。実は助けちゃうと、まずい！　何故か！　まず今の話を整理すると、まだ生きてる人間。でも、下半身ぐちゃぐちゃ、内臓ぺったんこ。でも即死せずに生きてるといふことは、逆にいえば救急車くると、たすけられちゃうかもしれないの！　それこまる」

「おい、ちょいまで、普通助けるだろ、自分が轢いたんだから！」

「ぶつぶぶ~~~~~~~~!!」

「その、ぶつぶ、マジ止めて……」

——こいつ本気でムカつく！

「駄目なのよ運転手さんにとつても、会社にとつても、もう下半身は切除決定、内臓も、あつちこつちから臓器移植必死。昭和の時代の臓器移植は、技術も低レベルで、人体での拒否反応とかもあるし、幾つも用意する必要あつて、しかも、人身臓器売買組織の現代よりも、もーつと、高価。そして、それら全部運転手か、もしくはしっかりしてたら会社が支払い決定なのは裁判の常識。でもほとんどの会社は、というかバブル時代の昭和会社は金、金、金、なの！　つまり運転手を速攻首にしてた——と、引いた日にちは、会社の人間じゃなかった証明書発行！　つまり責任逃れ。運転手が責任まるかぶり。それはトラック運搬業の業者間では有名な話。だから、運転手には、一生その轢き倒した相手に損害賠償や、生活の補助になる援助資金。治らない障碍者に！　延々と！　もう、お金がいくらあつてもたりない。家族も強制離散。もちろん最初は刑務所もある、ケツ掘られる。具合よし！　感触よし！　全てよし！　ふぁみ○ン・ウォーズが、でーたぞー、そいつはどえらい、趣味レーション！　具合よし！　感触よし！　すべてよし！」

「……」

にたあ、と笑う女神妹。

本気で、絶対的地位からの嫌がらせだ。

ハラスメント報告はどこにだせばいい？

神か？

悪魔か？

天界の法なんて俺が知るか！

海外法さえ知らんのに！

てかなんでこの女神、髪に隠れてるけど、あの側頭部から上に伸びてる『これがロングホー
ンだ！』の、ニンニクマンの腕切除に使われた臭い形の——どう、どの角度から見ても悪魔の
角だよね？

さつきから気になるんですけど。なんでそんなんはやしてるん？

女神が魔王にファックされた……んで出来ちゃった双子女神ちゃん？

いや、墮天使と人間女のファックで出来た巨人ネフィリムはアダムとイブほどじゃないけど、
大巨人だったという。

だからノアの箱舟で、ざばーっと大雨大洪水で皆殺しを計ったのが真実だったとは旧約聖書
だっただろうか。

まあ、箱舟の屋根に一匹しがみついてて、雨が止んだ後、ギリシャに逃げてその子孫がヘ
ラクレスとかアキレスとか生み出した、なんて聴いたが……。

いずれにしろ天使の不純物で人間もろとも溺死させる神がいるとかいわれた世界出身。

だったら、この双子の存在を神はゆるさねえだろ。

他の女神も天使もゆるさんやろ。

それまさにハーフェルフを見るエルフの集落の怜悯な眼光！

生まれた瞬間、首グキ！

それは昭和の敗戦日本進駐軍での集団米兵の日本少女集団レイプの産物処理——日本女子レ
イプ合戦の時と同じ流れじゃん。レイプされた我が孫が、腹パン流産させると子宮割れて二度
と赤ん坊できないと脅され、9か月後に生んでしまった餓鬼が青い目してる。

その段階で、爺さんの目が白くなる。

売つける〜 W W W W W』

そういう国がここ日本。

まじ腐ってるわ……。

そこから法律や秩序が創られてるわけで——狂ってる連中の法じゃねえか!?

賄賂たっぷりだから天皇も戦犯からはずされたが。

他の連中、日本を売っても自分は生きようとした連中は、結局首ぶらーんぶらーん。

お外では進駐軍が日本の憲兵に周囲を守らせ、邪魔が入らないようにしてから J S J C J K
以上全ての年齢若い子まで限定で集団強姦やん。

そら、眼の青い糞餓鬼生まれて、周囲に鬼畜米兵に襲われた娘よ、非処女よ W

なんていわれたら家族ぐるみで処女略奪されたやりまん家族と誇られ、おじいちゃんも日本
男児の沽券にかかわるから首グキだよね。

だから死体と孤児院は雑種の群れ！

昔の漫画みてみなよ。

孤児院出身と雑種じゃん。

タイガー、ジョー、サイボグのジョー。

これら全員忌子扱いやん。

それほど日本は純血種を守ろうとした。

なら、神は？

それと同じでこいつらも葬られなかったの？

あ、この女神、女神も悪魔も兼任する生命体か！

と、逃避しながら一人で結論だしてると——

「運転手はね、刑務所はいったあと、その被害者に助成するよう裁判で可決は決定なの——
だったら、これしかないじゃない。一番簡単な方法」

「簡單？」

[illegible]

「はい、すとおおおおおおっぷううううううううううう！」

「なんで!？」

「猥談にもつてくな、このエロ女神！ 反省しろ！」

「あれ、よく女神ってわかったね！　そだよ、私たちは死んだ人間の魂を査定し、幾らでどの異なる世界に引き渡すか値踏みして、競売にかける職業の女神なの！」

「なるほどなるほど人間の魂査定で異世界にひきわた——おい、ちよつとまでこら！　なんつった!？」

「大丈夫、もう終つて金になつてゐるから、ちなみに\$紙幣。で、なに？ それと君、女神にタメ口とか凄いね。色々覚悟してゐるんだよね——つて、おおっと、商品に傷はまずいか、ちつ」

「すごいじゃねえよ、なんだよ、値踏みして、競売??? 異なる世界に引き渡すって! それって、金持ちが仮面つけて人身売買組織から生娘買う闇のオークション的だろ! 『おおつと、いきなり10万\$、おっと、そちらの方は20万\$、20万\$、20万\$——おおおっと、いきなり80万\$! さあ、みなさん、この子は処女100%です。薬で記憶飛んでるので、貴方がご主人様ですよ!——はい10000万\$キタ——!』と、おんなじじゃねえか! 俺にはレ——ト文の配当金額はいんねーの!」

「ない。ついでにオークションで売れなかった爺婆の魂は、私たちが購入。超安く。チロロ

チョコくらいの値段で」

「めっちゃ安いな爺婆の魂。昔は若い時あったんだから、そこから値踏みしろや！」

「しない。昔のとは鮮度が違う。だから買い取った商品は別の使い道」

「別の？ 何に使うの？」

「うん、例えば、爺婆なら、邪教育成の館で悪魔鍊成。三体まで同時合体可能——で、出現したのは、『我、外道、スライム、今後ともよろしく——とか？』」

「はい、アウトオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ！」

思わず俺、超シャウトしちゃったけど。

すげえなこの女神、無視して先続けやがった。

「他には買い取った爺婆魂をネットにあげて、ポチった客の近い支店に送還。そして購買希望と現金のやり取り。そして箱詰めで異なる世界という名の新しきオーナーへ！ はい、通販終わり♪ も、やってるよ」

「ブック・●フとかすりゅや屋の本店かここは!? 通販終わり♪ じゃねえよ!!!!!!」

「じゃ、話し戻すね。長いよ?? 人を二度轢きして殺した運ちゃんは、務所の中から手紙を毎日だして、模範囚扱い。刑期が、さらにさらに減って。お早くお勤め終了。そして、裁判でいわれたとおり、遺族さんに罵倒されながら、それでも殺されるわけじゃないから。なんて言ったら、警察が傍にいて目を光らせてるから、両方へ。で、ご焼香！ かえれ！ って、言われるかもだけど、裁判所で遺影にご焼香は勧められるからね。そこらは警察がお話して、遺族説得。遺影に焼香したら、土下座で『すみませんでしたー、咄嗟に飛び出されて、対応できませんでしたー！ 僕にもっと運転技術あったら、貴方を刎ねる事もなかったかとおもいます！ 僕は会社を辞めて（もう辞めさせられてる）貴方の分も生きるようにして、必死に生きていきます！ そして休みの日は、できるかぎりボランティア活動と、こちらに焼香をあげさせにきさせてください』と、演技終わり。殺害料金裁判所できまつてるから、その分の金をためて、はらって、模範囚だから、と、便宜も働いて。刑期短い、料金安い。あれで救急車呼んで、まがりなりにも生きてたら、身体障碍者の面倒を生涯みる人生と、その分の金がなくなる人生が

まってる。家族も離散。まあ、当時は後の世で言うバブル期だから、人であまたと、会社はすぐ雇うんだけど、さすがに犯罪歴あると、ね。株式上場でアゲアゲ気味の普通の会社は、ね。だから、土木系のガテン系になって働く事になって、地獄からさらに魔界で生息してる気分状態。だから二度轢いた！ 後悔はしてるけど、反省は一切してません！」それが運転手の企みと」

「なげええええよ！」

「五月蠅い、黙れ、チ○コ引っこ抜くぞ、この隠れドMの表面意識で隠してるドS野郎が！ てか長いよって言ったでしょ!!校長先生の話は長いのに、あんた、長いよ! って皆の前で言える？ 後で職員室直行、教師の闇魔帳に超要注意人物——将来潰す方向で! ってかかれるレベルやったよ君？ 覚悟できてるんだよね？」

——やだ、怖い。なにこの女神。

そしたら女神は先をつづけた。

酔いしれるように——

「永遠に障碍者をみる面倒からの回復。簡単な刑期と金を遺族に貢げば、はいさようなら。遺族の前で謝罪したあと、どんな言葉はこうが、もう二度とくるか、ばーか！ これが貴方——被害者、ロンダルキアの、最後！ を崇るように殺した男の本意。もう一回目で死んでるのに行われた昭和名物二度轢き！ この時代なら、こういうべきね。『死体蹴り！ もうロンダルキアの体力は0よ~~~~!』 ってかんじ？」

「長い。本当に長い……でも俺、泣いていい？」

「いいよ、別に、そういう人多いから。もう死んじやった〜若かったのに〜、とかね。こっちの道いけば死ななかったああああ、やりなおさせてえええええ、とかって、そんでさめざめ泣くの。憐れw」

……なんなん、この子。

本気でなんなん？

一度異性に本気でぶっ飛ばされた方がいくないですか？

……やるか？

いや、でも、女神はさすがにあれか……

次の来世、超激悪にされそうだから、怖いからやめとこ……

「じゃあ、俺の肉体は……」

「二度轢きしたあと——あゝ、えっと、その前に確認。あそこらへん、君が住んでたのって、超山の中の田舎の集落みたいなの、かつてリゾートマンション乱立！でも今じゃマンションすら買う人なし。下手に買えば、引越した時、次のオーナーみつかるまで、延々と地獄の支払い、住んでもいないのに修繕費やら払わされ続ける、地獄の意味ない現金搾取！いわれる田舎の山のさらに山奥の頂上付近の壁に囲まれた屋敷群の一つだったよね？」

「長い……」

「うっせえ、黙って聞け、このでかいだけのホウケイ野郎が！カスをこれから出会う最初の女、美少女の口に放り込ませる運命に書き換えるぞ！」

「……」

「だから、監視カメラもまともにない1つ車線しかない国道で、トンネルの中で轢かれて、あわてて二度轢きをゆうっくりと喰らって、そのべっちゃんこになった死体をトラックのトレーラー部分に置いてあるビニールに入れて、荷台部分の巨大な冷凍コンテナに放られ、30分？

途中の山林で降車。監視カメラないのを確認して、運転中の休憩場所になってる登坂車線の横に広がるトラックの休憩地。そこに車をとめて運転手は誰もいない、車もない、のを、確認、山へ！奥深く入り込み、衣類剥奪灯油缶にポイで火をつけ焼却。

もってきた斧やナタで、ペチャンコの体の四肢を切断！」

「やめろおおおおおおおおおおお、笑顔の幼女顔で弾けながら、きもいはなしすんなああああああああああああああああああああああああああああああ！」

「いや、君の体だし。そんで山で体を切り落とした後、首も切り落とし、そのまま、あっちこっちの沢や、山の山林奥深い天蓋の下草葉っぱの中で、日差しがはいらなければ、腐敗臭充滿。つまり栗もどんぐりも伐採した国が、杉とかいう、一時期国産杉！って命題で高く建築業者に売ろうとしてた山林持ち主が、結局買ったたかれるだけで、意味なく放置。ただの杉花粉発生装置。国民みんな山地主のいいなりで顔面精子（杉）浴びて、排ガスとの化学反応で花

粉症になれ！　そんで山には動物の食う者はないから、肉の腐敗臭したら動物がすぐあつまって、肉の奪い合いで、骨の髄までしゃぶられて、クマの餌かサルの餌かイノシシの餌か、キツネも狸も、肉食動物が4分割された手足と、胴体、頭部を、あっちこちに捨ててあるから、あっちこちから、こんどはテンとかハクビシンとか動物がきて、ぱくぱく」

そこで俺は……

[illegible]

「ちよおおおおおおおおおおお！ 神聖な審判の神殿で、ゲロルな！リバるな！お前、後でちゃんと聖水でモップブラシ使つてふいとけよ！ 唾液の飛沫一個残すなよ！残つてたら異なる世界に売っぱらった後、絶対天罰おとすかな！ 堕とし続けるかな！！！！」

「うん、わかつちやった。うん。もう、やだ、この女神、気がくるつて……絶対……絶対……自分たちは吐いたくせに……」

「で、肉体はすぐに喰われて、骨だけのこつて、数年たてば、落ちてきた葉っぱが溜まって骨を隠し、小さな微生物が葉っぱを分解。綺麗な腐葉土から、そのまま高級な黒土にかえるのです。そして骨も酸性土壌で溶けていく。先にいったように、運転手は別の山で、君のバラバラにやぶいた洋服を、こういう時のために用意してた油。例えば灯油、かけて、一気にもやしてゐる。さっきも言ったね。もちろん、おおきめな缶の中で、森で火災はやばいからね。で、燃え終わったら小便かけて、一気に消して、穴をほって、そこに燃えカスの黒いおこげをいれて、土をかける。『そしてコロナ対策用の消毒エタノールよ、ありがとう』といいながら、『ああ、こぎたくない死体だった』と、消毒完了。そのままエタノールを、君がぶつかったトラックの前面。もっともこういう時のために、前面のフレームとかをチタン合金にしたりして、刑事の捜査がきちゃったとき、修理工場にいった形跡なし！へこみなし！完全に轢いた車と分らない限り、過酸化水素と一緒に使うと血液の存在を強い発光でお知らせのルミノール反応探しまではしないからね。つまりこの事件、君の殺害事件は——」

「——迷宮入り……」

「はい、せいーい♪
 どんどんぱふぱふ。
 ようやく現実つてのを理解してきたね。まあ、結

局そういう事、あ、生き返りたいとか体をもってきたいは、もう無理だから。だって、君の肉体はもう無くなっちゃったしね」

「な、なんだよそれ……どうしてそんなことに……」

「はいはい世界が認めたイケメン君が、泣かない、泣かない☆彡　トラック運ちゃんなんて、昭和の話を仲間の親分にきかされてたなら、山んの中の事件、速攻実践でしょ。デメリット少ないし」

「ひどい、あんまりだ……」

「その台詞、あんたらの世界で、二度轢きされた魂に説明してあげると、みんな同じ反応するね。あ、自己紹介まだだったね。私は君の今までの、というか死んだ原因となった、もう過去。やら、これから起こる、あっちの世界の出来事、犯人の実行する君への犯行消滅行動を説明する超、きらきら、ぱきゅーん、な、女神だぞ！　双子女神の妹です！　ちっすちっす」

「……」

「軽い女！　とか思うなよ。これ、キャラ作りだからね。人気になるにはアイドル女神とはいえ、こういう役づくりは必要なの。ぱきゅーん♪　て、わけで、こちらの静かな清楚系してるけど腹黒いのが金髪ゆるふわが姉のエルファ。君の今後を決める女神だよ」

「……今後？　俺の魂が金銭価値に変えられて、どっか別の世界へ移送？　だろ？」

その言葉はエルファと呼ばれた女神が継いだ。

しかも二人とも金髪になった。大人びた感じに見えてきた。

神々しい。

そしてマジむかつく。





「そゆことつすロンドルキア。でも、それでさっそくなんすけど、君、天国行きたい？　もう一回人生やりたい？　いちおうおいら達は、定め of 年齢への執着点——つまり天寿全う。これが出来なかった不幸な人間や動物を、魂のありかをどうすべきか診断する神なんすよ。ちなみに、天国か、人生やり直すか、地獄へ行くか——これは、おいらたちが判断するっす。もちろん金が動いて異世界に買われてるのに、本来選択権はないんすけど。でも、立派な事情があれば、天国地獄行きもできるっす。強欲に金を集める屑とか、権力を手放せずにいる憐れな執権にしがみつく屑とか、暴力、強姦、窃盗、強奪する屑とか、強盗、詐欺、さらに人様の家屋にて押し入り強盗の上殺人、てなかんじが確実に地獄行っす。めっちゃ、激痛伴う世界を無限の時間そこで凄し、輪廻転生はないっす。あ、ちなみに、魂を、発生において、やがて戻ってくる終着の箱——魂の小箱に戻る事もできるっす。この場合、輪廻転生からされるっす。ついでにその箱の中でいつか何千年、何億年かで、考えが変わって、もう一度、どこかの異界、どこかの惑星。そこで生まれ直したい、と、考えた魂は、雀の鳴き声とともに箱が開かれるっす。その時、新たな未来へ——という洗濯もあるっす。ちなみに人生このまま移行する事も可。する場合、転生でアークの法則が適用。現年齢16から、異世界探検をやることになるんすけど肉体はおいらの力で再生可能、で、どするの」

「なんか意味がわからないけど、このまま生まれ変わるってこと？」

「そういうこと。しかも大サービス、再生に際して潰れた部分も完全修復。同じ顔と身体的特徴は残しといてあげるっす。でも別に頭の可哀そうな子専用のラノベと違い、チート能力付与はないっす。もちろん女神が一緒についてくる、とか。そんなアホな事ないから。どんな契約だろうと、ありえなから。そして凄い武器。これも天界の所有物で、お前さんがその地で死んだら、その武器野放しで金持ちあたりが買いそろえたりする強欲野郎の考えそんなことなので金持ちの馬鹿はチンコちょん切りの上、荒野に転送。ぶっころ。つまりそういう事態は各異世界に手をつける訳にいかないのでなしっす。あと、凄い能力持ちとか、その人間の許容量超えて廃人になるから、なしっす。あと、スマFもって行って、それを使えば何でもできる——も、なしっす。女の子がわいわいあつまって、日常系アニメ——は、誰かがきらいなので、なしっす。他にも前の星でつちかったノウハウでスローライフしてます系もないっす。世界はあそこまで馬鹿じゃないっす。みんなすぐに気づくのでスローライフする前に貧乏ライフがまつてるだけっす。ちなみにこれだけはしっかりした理由があるっす。おまえさんの魂の行き先、すでに綱が魂に掛けられ、もうお話してる最中に、おいらが魂の値段を受け取った結果。君は戦乱——魔物と、そこで戦うものたちとの、一般兵になって、肉壁で射殺までが決められた世界に売り飛ばされる事になったっす！」

「ちょおおお、つと、までやこら！　いきなり値段付けられて、そんなおっかないとこいけてか！」

「うん」

「うん、じゃねえよ。曇りのない清らかな目元で、慈母と博愛のオーラだしまくりで、正反對のおっそろしいこと遂行すんな！　てか、俺の魂いくらよ？」

「えっと、こっちに審判の宮殿で、彷徨う魂だったあんたを救うためにいつもの競売にかけて……300リラで買った」

「リラって貨幣価値の単位？」

「うん、そんでそのちようやっべえ生物全部しぬんじゃね！　に一般兵くらいの扱いになるだろうからって、君を売り飛ばした金額は300億リラ」

「……ちょ、え、は？」

ロンドルキアは呆然。

二人の女神は同時に椅子の隣にあった台からティーカップを持ち上げ、一緒にずっと啜ってる。

そしてロンドルキアは、いきなり膝から崩れ落ち……

「俺の知らないところで300リラ……いや、300円で審判の女神どもに魂を買い取られ、知らないところで300億リラ……いや300億円みたいで売られた。

そしてこれから、戦争のいきなり脳天に一撃くらって、前世で死んで、せっかく審判の女神に会ったのに体を蘇生してもらったら、いきなり別世界で生きてる実感を感じた瞬間、そこは紛争地域。

つまり死刑が確定した。

だから相手の銃弾脳天から浴びて、また死亡！　相手はひゃっほおお1キルだああああ！　と、どっかの寒い殺戮ゲームみたいに殺されて、すぐ死んじやうんだ——」

「現実受け入れろボンクラ」

姉女神のセリフ。

「うっさいわ、ボケ！ 何のために俺を生き返らせた！ 大昔の名作漫画の主人公みたいに叫んでやる！ なんてあのまま死なせてやらなかった!!!」

「お前の魂をここで救済として招集。異世界のまだ神の概念がない世界にてえを落とし、そこでお前が私たちに願う。すると願いが叶う！【神がいる！】これで神の存在を教える！ つまり私たちの布教！ 向こうの世界で神を認めさせろ！ 存在Xにするんじゃないっす」

「存在云々じゃねえよ！ お前らの望みの布教、それを戦地でやらせてから、死ねといいますか存在Xさん！」

「まあ、だいたいそんなところ」

「お前、おい、ちょ、女神、まてや。おま、人間の魂どうおもってた……くいや思ってたすらないか？ いや、狂ってのか？ 狂ってんだろ?? 妹といい、なんなの女神って、マジで怖いんですけど、いや、もう、ドン引き……」

「いいの。人に理解されてるようじゃ女神失格。大丈夫、今の話聞いて、優しい私が、戦争の起こる1000年前に墮としてあげる。それで1000年間いきれるようにして、その体のまま、そんでくだらない紛争にまきこまれる！ で、1000年鍛えた体と叡智で、敵の全てを——ぶっとばーす！ で、どう？」

ウインク一つ、人差し指をむけてくる妹女神。

エルファはなぜか満足げに頷いた。

「ちなみに天国行きの話だけど。天国って、あそこは平和な地平を座ったり歩いたりする何も無——げふっ、廃人がお花畑で蝶々をおいかける地獄。天使や女神の腋や胸やら尻やらに欲情したら一気に奈落へ——げふ！——なんでもない！ みたいな平和な世界かな」

とはアリスの補足だが。

いくらなんでも16でいきなり牧歌的な世界に行くのはごめんこうむりたい。そして地獄もい

やだし、1000年間生きられるなら、紛争始まる前に、すごい能力を手に入れるか、未来を変えれば！それに気づいたロダルキア！

そして彼女はこんな条件もくれた。

「——ちなみに人生やり直して1000年後の大戦争突入するために、1000年前の時代に転生するなら、君の生前の行いを考慮して、悪い事いっさいしてない退屈——げふ！——言い男だったから、そこらを考慮、加味して、君は勇者の力を与えられるよ。せっかく異世界行くならそういうのがあった方がいいでしょ」

「え、勇者の力？ 人生ウハウハじゃないか！」

「ウハウハかどうかは君次第。1000年後は生命みな滅びるほどの戦争がまってるから、君は1000年間、どういきるのかをテーマにいきないとね」

等とやっている間に、足場に空間が広がっていく。

それはどこまでも澄んだ乳白色だが海のような場所で、ロンドルキアには見覚えがあった。

「いよいよ、行くのか異世界。しかも、ここは……俺、なんか見覚えあるぞ……」

さらに頭上にも温かな光差し込む乳白色の雲がある光景が浮かんできたのだ。だが、ロンドルキアは足元の世界に魅入られる。

「何故だ、何故なんだ、見れば見るほど思い出す……覚えている。でも、ここ異界の光景だね。なのに、確か俺は、ここに行こうとしてた……そんな気がする」

「そうだよ。さあ選んで。頭上の天国にいくか、足元の転生の地へいくか。魂を箱へ向かうか。地獄行くか」

「選んでって、一応覚悟きめたけど、ちょっと待ってくれ!？」

「後がつかえてるっす。さっさときめて。はい、のこり10秒」

これが任務だよとばかりにエルファが指折り数えていく。

「なら、転生。行ってやるよ1000年後の生命絶滅時代がまっている異世界へ！ 本気で
行ってやる！ ぜってえだ！ それまでに無敵の勇者能力を開花、そして歴史を変えてやる！
問答無用だ！ 俺に未来を託したのはお前らだ！ だから俺が1000年後の生命全てを助
ける！」

とか、ちょっとかっこつけながら、ロンドルキアは自分に陶醉。
自らの体を抱きしめた。

「……あんた、ナルシスとして、この目録に記載あったけど、マジだったのね」

妹女神が「うっわ」的な顔してどんびきした。

そして女神たちは一瞬視線を合わせたが、同時にかぶりを振った。

「一ついい情報あげる」

「え、なんですか？」

「これからおまんが行く世界。そこ、おいらの出身地。そこで処女のまま死んで、女神試験に
ママメガ様との伝手をお願いして、ママメガ様を守護する巫女になって、あ、腋巫女じゃない
から——」

「ち」

ロンドルキアは舌打ちした。

「それで巫女の業務まっとうしたら、女神試験うかって、
妹もこっちきたから一緒に審判の女神になった——

で、ここよ——

その今からおまんが行く世界に、おいらとおなじ口調の種族がいるっす。

普段はのんびり森の中の奥深くで暮らして、世界規模のやばい奴、例えば魔王なり神なり
なんなりと、その世界を破壊しようとする敵が現れ、彼らが敵と判断すると。そこでお前の
出番、

民衆東ねれ、

そすRたみんながいっせいに立ち上がり、拳の一振りで魔族の軍団だのの生首100匹程度余裕でもげ——状態？

そんなんで魔王とかぶったおして世界に秩序や平和が訪れると、何も言わずに全員森に帰る。

まあ、世界の守護者？

星の始まりにして終焉までを見守る者？

と、言われた種族の出身っす。

だから、おいらの世界にいったら、同じ口調の種族を探して仲間になってもらうといっす。いきなり化け物に殺されたりしたら嫌っしょ？ 戦いの助言とかくれる、今のおまんなら、心清らか、と、判断してくれて、助言をいくらでもくれるはずっす。困った時に、彼らを探してみるっすよ……というか、そっちに行くように神託してあげといちやる。哀れだから」

「ちょっと姉さん、何考えてるの!?——向こうの重要情報渡すなんて」

「おちつけアリス。考えてみるっす、もうこいつの魂はすでに向こうの物。だったら、未来の破滅を、生命全ての根絶をおこさせない希望があるなら、こいつが1000年生きて、あの世界を守るのだとしたら——せめて助言くらい、してもいいはずっす。向こうの異世界には恩も売れるし」

そこで妹女神はいいのかなあ。

と、悩み。

すぐ結論。

「もう……わかったわ。いおいロンダルキア、私も君の脳に書き込んでおいてあげる」

「脳に書き込むってなにを！」

「前の世界で、社会、という名の現実で生きる常識かしらないあんに、密林や荒野で生き抜くサバイバル技術と、あとは、簡単な武器をあげる。

ああ、天界の神の武器——

とか、そういうのじゃないから。ただの棒。

私は差別しないから。

あんたが知ってる——ただの武器——よ。

向こうに転生した時、にぎってるわ。

まあ、大した事じゃないけど暇つぶしのトークに対する代価。餞別よ。
あとは向こうで人類種もいるから、そこで現地データを吸収しなさい。

街とか集団が集まる場所にたどり着いたら、酒場とかがセオリーだけど、裏路地開店してる
お店系はおすすめしない。

身元不明のごろつきや、殺人鬼。

強姦魔、チンピラ、荒くれの集まりになってるでしょうから。

アニメじゃないんだから、そこでお話合い、は、無理。

入ったら、死ぬか、殺すか。掘られるか。

ヒントは大昔の警察映画でサラダ・バーよ。

まあ、忘れてていいわ。

いざというとき、脳みそから浮かぶから。

それだけ。

あ、どうせいくら食道にいきなさい。

大通りの。繁盛してて、入り口から覗いて、みんなが和気あいあい。女がたくさんいるところ。
エロイ女は論外よ。

ぼられて性病プレゼントモードになるから」

「おK、わかった。ありがとうございます妹女神様。すごく優しい情報ありがとうございます」

「あの、たまにはおいらの事もおもいだして？　ここにいるよ？　かなり有益な情報をあげた
んっすけど」

「ありがとうございます姉女神様。ほんとうにありがとうございます」

パイプ椅子から降りて正座で土下座。

そのままおててを合掌した。

そんな彼に妹女神は最後の一言。

「それと、1000年の戦いの後、もしも生命消滅の危機を救ったら、あんたの力で——
だけ——そしたら、こっちに呼び戻して、神の世界の生きたディーバ、天使のような存在にして
あげる。どこの世界にも降臨できて、人の姿で困った人類を救済したり、こっちで他の天使と
いちゃいちゃしたり、色んな世界のゲームとかお菓子もらえて、女の子みなよってくるよーウ
ハウハできるんだよー！」